川村学園女子大学研究紀要　第22巻　第2号　79頁—93頁　2011年

社会福祉施設実習における実習評価に関する研究
――実習学生の自己評価と実習施設の評価との関連から――

梅　澤　嘉一郎*

A Study Concerning Field Work Assessment In Field Work Practice
In relation to between self-assessment of field work student and institutional assessment

Kaichiro Umezawa

要　旨

本研究は，平成21年度保育実習Ⅱ（社会福祉施設）実習2年生，平成15年度社会福祉援助技術現場実習生並びに平成18年度介護等体験3年生の実習結果から，2年生並びに3年生による実習自己評価と施設での実習評価の相違を明らかにし，今後の事前学習並びに事後学習の指導に活かすことを目的とするものである。

検討をおこなった結果，次のことが結論づけられる。

1，学年による差の関係
　2年生と3年生で差が認められた。児童養護施設実習でその差が顕著である。

2，自己評価と施設評価の関係
　学年による違い以上に差があり，施設と学生による自己評価との間では，いずれも自己評価の方が低くなっている。

3，各学年別の自己評価と施設評価の関係について
　各評価項目と各学年毎の自己評価と施設評価には差がある。
　各学年の自己評価と施設評価との関係についても差がある。

4，自己評価と施設評価の学年別の相違状況
　施設評価の学年差の方が自己評価の学年差より高い。特に，児童養護施設の場合，評価項目全体で，自己評価で3年生が2年生を上回っている。

5，2年生の実習種別毎の自己評価と施設評価の差異の状況
　各実習種別毎に評価に差がある。すなわち，施設評価と自己評価が同じ場合が多い施設種別では，児童養護施設（62%），知的障害児施設（54%），乳児院（54%），障害者更生施設（33%）と多い。

*教授　社会福祉学・精神保健福祉学

自己評価より施設評価の方が上回っている施設種別順では，障害者更生施設（48%，内，2ランンク上回っている施設の割合は10%で一番多い），乳児院（31%）
知的障害児施設（22%），児童養護施設（15%）である。
逆に，施設評価の方が自己評価より下回っている施設種別順では，知的障害児施設（24%），児童養護施設（23%），障害者更生施設（19%），乳児院（15%）となっている。
6，家事の宿題実績と施設評価との関係
2年生での児童養護施設実習は，その設置理由から，「家庭にかわる場」として家事の占める割合が多いので，夏休みの宿題の評価と施設評価では差が見られた。
以上の結果から，2年生と3年生で実習では，児童養護施設実習が2年生の実習で施設評価が厳しく，事前指導では，事前指導として家事等の体験を経験しておくことが肝要である。

キーワード：社会福祉施設実習，自己評価と施設評価，実習評価の学年比較

1．はじめに

本学では，平成15年度から3年次での社会福祉援助技術現場実習並びに4年次での精神保健福祉援助技術実習が開始され，保育士養成における保育実習Ⅱでは2年次で児童福祉施設を中心とする実習も行われ，早8年目となる。

小学校並びに中学校教諭の普通免許状を希望する学生は3年次に特別支援学校2日間，社会福祉施設5日間の介護等体験も本学では平成10年度入学生から開始され，平成21年度からは単位化され実施されている。

各実習に共通するものとして，実習評価がある。学年が相違する場合の実習について，学年によって，実習に関する自己評価や施設評価にはどの程度の差があるのかどうか。もし，差があるとした場合に，実習事前指導ではどのような対応をするべきかについて明らかにする。

2．研究目的

本研究は，実習学生の学年により，自己評価，施設評価の差，その差を埋めるための事前指導の方法等の試みの影響等について検証し，実習学生の実習自己評価と施設での実習評価とを併せて検討することにより，事前指導課題を明確にし，今後の事前学習並びに事後学習の指導に活かすことを目的とするものである。

実習評価は，1988年（昭和63年）に出された通知「社会福祉士養成施設等における授業科

目の目標及び内容並びに介護福祉士養成施設等における授業科目の目標及び内容について」において，必ず含めなければならない教育活動の一つとして位置づけられている。

さらに，2008 年の通知[注1)] でも，前回通知と同様に評価が重要な教育活動として位置づけるとともに，実習評価の規定として，実習内容の達成度の評価，実習指導担当者の評定の考慮及び実習生本人の自己評価の考慮の 3 点が示されている。

この 3 点から導き出される教育評価は，キーワードとして，①達成度評価②個別指導③評価基準④評定⑤自己評価である[注2)]。

上記，指針を踏まえ，施設実習指導者による施設評価と実習学生の自己評価について本研究では，同じ学年と学年を異にする場合の評価についてその現状を明らかにするものである。

3. 研究対象と方法

2 年生及び 3 年生の自己評価並びに施設評価の相違の調査おいては，3 年生については，社会福祉援助実習の社会教育学科 3 年生 18 名である。施設種別は，児童養護施設 4 名，身体障害者更生施設 14 名である。実習の終了のお礼を含め施設実習指導者に「実習態度」,「利用者との関係」,「基礎的知識」の 3 項目について 4 段階評価（A = よい，B = ふつう，C = 要努力）で評価をお願いし，併せて自由記述の総合評価もお願いした。その結果を「施設評価」として研究対象とした。2 年生は，平成 21 年度保育実習Ⅱ（社会福祉施設）実習生 51 名に協力をお願いした。

3 年生との比較では，児童養護施設実習生 18 名，身体障害者更生施設 14 名であった[注3)]。

4. 結果

1，学年別による差の関係

2 年生と 3 年生の学年による評価については，3 領域の評価別項目について 3 年生の方が評価が高い。施設評価では，児童養護施設が 16 ポイント，障害者更生施設が 3 ポイント上回っている。また，自己評価では，児童養護施設は 8 ポイント，身体障害者更正施設は 1 ポイント下回っている。

分散分析の結果から見ると，学年別評価項目間変動では，F 値 = 3.420 ＞ F（0.95） = 2・487 から有意差があり差があるといえる。

以上，学年による違いにより差があり，施設と学生による自己評価との間では，いずれも自

表１　調査対象施設種別施設数並びに学生数

		２年生		３年生			２年生施設数内訳	
施設種別	調査種別	施設数	学生数	施設数	学生数	体験学生	人／施設	施設数
児童養護	実習評価	8	18	4	4		1	3
	実習不安	10	21	0	0		2	4
	実習満足	11	21	0	0		7	1
	日誌評価	8	18	0	0			
	大学評価	8	18	0	0		計	18
身体更生	実習評価	7	15	14	14		1	4
	実習不安	8	18				2	1
	実習満足	8	18			16	3	1
	日誌評価	8	18				6	1
	大学評価	8	18				計	15
知的障害	実習評価	6	14				1	1
	実習不安	5	13				2	3
	実習満足	5	13			15	3	1
	日誌評価	6	15				4	1
	大学評価	8	17				計	14
乳児院	実習評価	3	4				1	2
	実習不安	3	5				2	2
	実習満足	3	5					
	日誌評価	3	5					
	大学評価	3	5				計	5
高齢者施設	実習不安	0	0					
	実習満足	0	0			33		
計	実習評価	24	51	18	18			
	実習不安	26	57			53		
	実習満足	27	57			64		
	日誌評価	25	56					
	大学評価	27	58					

【備考】 1，単位：施設数（ケ所），学生数（人）
2，施設種別：児童養護＝児童養護施設，身体更生＝身体障害者更生施設
3，実習学生＝２年生の場合は，平成 21 年度，保育実習Ⅱ（社会福祉施設実習 90 時間），3 年生は，平成 15 年度　社会福祉援助実習（社会福祉士実習 180 時間），体験学生は，平成 18 年度の介護等体験学生。
4，実習評価：2 年生は，平成 21 年度　保育実習Ⅱでの自己評価並びに施設評価。22 年 1 月 27 日，回収。回収率 59%（51 名／ 86 名）日誌評価も同じ。
実習不安・3 年生：平成 18 年 4 月 6 日に，介護等体験予定学生への体験前のアンケート回収数（72 名に配布し，53 名回答。回収率 74%.
実習不安・2 年生：平成 21 年 9 月 28 日に，10 月からの実習前にアンケートを実施。83 名に配布し 57 名回収。回収率 69%.
実習満足：3 年生は，介護等体験終了後の学生に，平成 18 年 6 月～ 19 年 2 月に実施。72 名に配布し 57 名回収。回収率 79%.
2 年生は，21 年 10 月 26 日に 66 名配布し 57 名回収。回収率 86%。
大学評価：平成 21 年度　保育実習Ⅱの「事前・事後指導」の評価。

表２　施設評価と自己評価の状況（2 年生及び 3 年生実習）

施設種別	評価項目	2 年生		3 年生		差　2 年－3 年	
		自己評価	施設評価	自己評価	施設評価	自己評価	施設評価
		X	Y	X	Y		
児童養護	態度	81	84	92	100	△ 11	△ 16
	利用者	76	76	83	83	△ 7	△ 7
	知識	71	83	58	75	13	8
	計	75	76	83	92	△ 8	△ 16
身体更生	態度	81	85	74	90	7	△ 5
	利用者	70	86	79	83	△ 9	3
	知識	82	84	60	69	22	15
	計	77	85	76	88	1	3

【備考】 1，単位 =%
2，施設種別：表 1 の備考欄の説明と同じ。
3，評価項目の明細は，表 3 に示す。評価点は，各評価項目毎に下記により積算し，評価項目全体の構成比（%）．A（4 点，81 点～ 100 点＝大変達成できた），
B（3 点，71 点～ 80 点＝やや達成できた），
C（2 点，60 点～ 70 点＝やや不十分），
D（1 点，59 点未満）

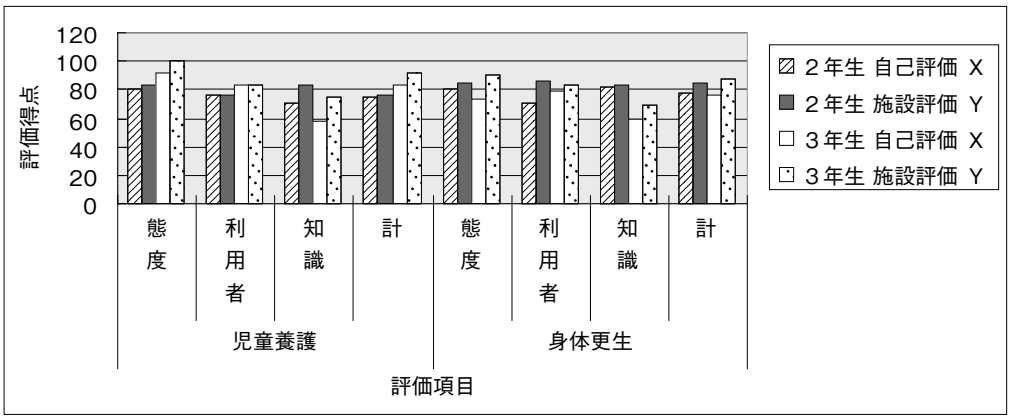

図１　施設評価と自己評価

【備考】1，評価得点（%）

表３　自己評価と施設評価の相違状況

評価相違	児童養護	障害更生	知的障害	乳児院
Y ＞ X が＋2	0	10	2	4
Y ＞ X が＋1	15	38	20	27
Y ＝ X	62	33	54	54
Y ＜ X が－1	23	14	20	11
Y ＜ X が－2	0	5	4	4
協力学生数	18	15	14	4
実習学生数	25	40	18	5

【備考】 1，単位＝%
2，Y＝施設評価（2年生），X＝自己評価（2年生）とし，5つの評価相違の構成比（%）を示す。

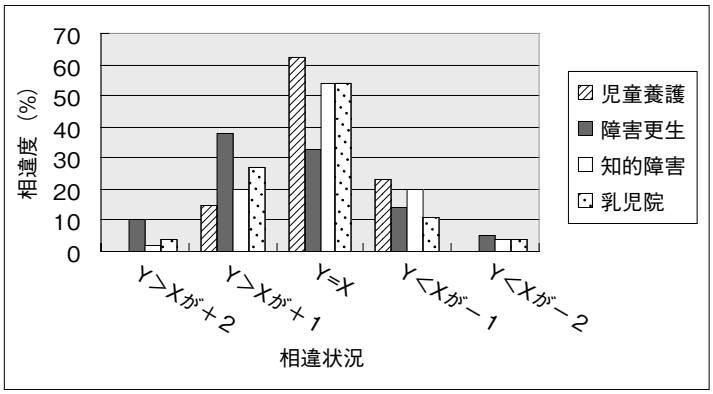

図２　施設評価と自己評価の相違状況

表４　施設種別施設評価の内訳（２年生）

施設種別	評価	評価区分（態度）						点数
		1，服装等	2，明朗	3，積極性	4，協調性	5，言葉	計	
児童養護	A	18	6	6	10	7	47	188
	B	0	9	8	6	9	32	96
	C	0	2	3	2	2	9	18
	D	0	1	1	0	0	2	2
	計	18	18	18	18	18	90	304
障害更生	A	11	7	6	9	8	41	164
	B	3	4	8	3	4	22	66
	C	1	0	1	3	3	8	24
	D	0	0	0	0	0	0	0
	計	15	15	15	15	15	75	254
知的障害	A	5	3	0	2	3	13	52
	B	9	7	6	10	9	41	123
	C	0	4	8	2	2	16	32
	D	0	0	0	0	0	0	0
	計	14	14	14	14	14	70	207
乳児院	A	2	1	0	0	1	4	16
	B	2	1	2	2	0	7	21
	C	0	2	2	2	3	9	18
	D	0	0	0	0	0	0	0
	計	4	4	4	4	4	20	55

【備考】　1，評価別の加点等については，表２の備考３のとおり。
　　2，単位　人。

表５　施設種別施設評価の内訳（２年生）

施設種別	評価	評価区分（利用者関係）						点数
		6，関わり	7，理解	8，計画	9，保健等	10，実践	計	
児童養護	A	4	1	2	8	2	17	68
	B	9	13	15	9	13	59	177
	C	5	4	1	1	3	14	28
	D	0	0	0	0	0	0	0
	計	18	18	18	18	18	90	273
障害更生	A	9	6	8	9	6	38	152
	B	4	8	5	5	7	29	87
	C	2	1	2	1	2	8	16
	D	0	0	0	0	0	0	0
	計	15	15	15	15	15	75	255
知的障害	A	3	0	2	2	0	7	28
	B	2	6	2	5	6	21	63
	C	9	8	10	7	8	42	84
	D	0	0	0	0	0	0	0
	計	14	14	14	14	14	70	175
乳児院	A	1	0	0	0	1	2	8
	B	3	2	1	2	2	10	30
	C	0	2	2	2	1	7	14
	D	0	0	0	0	0	0	0
	計	4	4	4	4	4	20	52

【備考】　1，評価別の加点等については，表２の備考３のとおり。
　　2，単位　人。

表６　施設種別評価の内訳（２年生）

施設種別	評価	評価区分（知識・記録）				点数	構成比（%）
		11 提出	12 内容	13 反省評価	計		
児童養護	A	18	2	2	22	88	179/216
	B	0	13	14	27	81	
	C	0	3	2	5	10	
	D	0	0	0	0	0	
	計	18	18	18	54	179	83
障害更生	A	12	6	8	26	104	152/180
	B	1	5	4	10	30	
	C	2	4	3	9	18	
	D	0	0	0	0	0	
	計	15	15	15	45	152	84
知的障害	A	7	1	2	10	40	120/168
	B	4	7	6	17	51	
	C	2	6	6	14	28	
	D	1	0	0	1	1	
	計	14	14	14	42	120	71
乳児院	A	4	1	1	6	24	41/48
	B	0	2	3	5	15	
	C	0	1	0	1	2	
	D	0	0	0	0	0	
	計	4	4	4	12	41	85

【備考】 1，評価別の加点等については，表２の備考３のとおり。
2，単位　人。

表７　施設種別自己評価の内訳（２年生）

施設種別	評価	評価区分（態度）						点数
		1，服装等	2，明朗	3，積極性	4，協調性	5，言葉	計	
児童養護	A	16	6	4	8	4	38	152
	B	2	9	9	9	11	40	120
	C	0	2	5	1	3	11	22
	D	0	1	0	0	0	1	1
	計	18	18	18	18	18	18	295
障害更生	A	11	6	1	6	3	27	108
	B	4	8	8	9	9	38	114
	C	0	1	6	0	3	10	20
	D	0	0	0	0	0	0	0
	計	15	15	15	15	15	75	242
知的障害	A	9	3	0	1	3	16	64
	B	5	9	4	12	6	36	108
	C	0	2	9	1	4	16	32
	D	0	0	1	0	1	2	2
	計	14	14	14	14	14	70	206
乳児院	A	3	1	0	0	0	4	16
	B	1	2	3	3	3	12	36
	C	0	1	1	1	1	4	8
	D	0	0	0	0	0	0	0
	計	4	4	4	4	4	20	60

【備考】　1，評価別の加点等については，表２の備考３のとおり。
　　2，単位　人。

表８　施設種別自己評価の内訳（2 年生）

施設種別	評価	評価区分（利用者関係）						点数
		6，関わり	7，理解	8，計画	9，保健等	10，実践	計	
児童養護	A	10	1	7	8	0	26	104
	B	5	10	8	9	13	45	135
	C	1	7	3	1	5	17	34
	D	2	0	0	0	0	2	2
	計	18	18	18	18	18	90	275
障害更生	A	5	1	2	2	1	11	44
	B	8	7	8	9	8	40	120
	C	2	7	5	4	5	23	46
	D	0	0	0	0	1	1	1
	計	15	15	15	15	15	75	211
知的障害	A	2	0	1	3	4	10	40
	B	7	7	5	8	3	30	90
	C	5	7	7	3	6	28	56
	D	0	0	1	0	1	2	2
	計	14	14	14	14	14	70	188
乳児院	A	2	0	0	1	0	3	12
	B	1	0	1	1	2	5	15
	C	1	4	2	2	2	11	22
	D	0	0	1	0	0	1	1
	計	4	4	4	4	4	20	50

【備考】 1，評価別の加点等については，表 2 の備考 3 のとおり。
2，単位　人。

己評価の方が低くなっている。

2，各学年別の自己評価と施設評価の関係について

各評価項目と各学年毎の自己評価と施設評価には差がある。

各学年の自己評価と施設評価との関係についても差がある。

各評価項目における施設評価と自己評価とを比較すると，施設評価と自己評価ともに「知識」の一番評価が低い。そして施設評価では，「知識」，「利用者」，「実習態度」の順に評価が高くなっている。

児童養護施設の「利用者」では，2年生の施設評価は3年生よりも7ポイント低い。「知識」については，3年生が2年生よりも8ポイント低い。これは，平成14年度に資格養成がきまり，年末に社会福祉原論等集中授業を余儀なくされるなどの特殊事情の影響が勘案される。

3，自己評価と施設評価の学年別の相違状況

施設評価の学年差の方が自己評価の学年差の方が高い。特に，児童養護施設の場合，評価項目全体で，施設評価で16ポイント，自己評価で8ポイント3年生が2年生を上回っている。

4，実習種別毎の自己評価と施設評価の差異の状況

各実習種別毎に評価に差がある。すなわち，施設評価と自己評価が同じ場合が多い施設種別順に，児童養護施設（62%），知的障害児施設（54%），乳児院（54%），障害者更生施設（33%）と多い。

自己評価より施設評価の方が高い実習種別順では，障害者更生施設となっている。

施設評価が自己評価より低い実習種別では，児童養護施設が一番多く，ついで知的障害児施設である。自己評価より施設評価の方が上回っている施設種別順では，障害者更生施設（48%，内，2ランンク上回っている施設の割合は10%で一番多い），乳児院（31%），知的障害児施設（22%），児童養護施設（15%）である。

逆に，施設評価の方が自己評価より下回っている施設種別順では，知的障害児施設（24%），児童養護施設（23%），障害者更生施設（19%），乳児院（15%）となっている。

施設評価の自己評価に対する増減を施設比率で見ると多い順に障害者更生施設（＋29%，乳児院（＋16%），知的障害児施設（－2%），児童養護施設（－8%）で，障害者更生施設は自己評価より施設評価が上回る施設が29%あるが，児童養護施設では下回る施設の方が8%を占める。

表９　施設種別自己評価の内訳（2 年生）

施設種別	評価	評価区分（知識・記録）				点数	構成比％
		11 提出	12 内容	13 反省評価	計		
児童養護	A	18	2	5	25	100	184/216
	B	0	13	13	26	78	
	C	0	3	0	3	6	
	D	0	0	0	0	0	
	計	18	18	18	54	184	85
障害更生	A	13	1	3	17	68	147/180
	B	1	11	11	23	69	
	C	1	3	1	5	10	
	D	0	0	0	0	0	
	計	15	15	15	45	147	82
知的障害	A	13	2	2	17	68	128/168
	B	0	5	5	10	30	
	C	1	7	7	15	30	
	D	0	0	0	0	0	
	計	14	14	14	42	128	76
乳児院	A	2	1	0	3	12	33/48
	B	2	1	2	5	15	
	C	0	1	1	2	4	
	D	0	1	1	2	2	
	計	4	4	4	12	33	69

【備考】 1，評価別の加点等については，表２の備考３のとおり。
2，単位　人。

5. 結論

本研究の結果，施設実習では実習配当学年により施設評価，自己評価ともに差があり，特に施設評価に差を生じることがわかった。

今後の実習指導につき，特に宿泊を伴う実習で，養護施設等の実習を前提に家事のこと等も自主学習を推奨する等の対応が今後とも必要である[注4)]。

養成校と受け入れ施設は思いは同じであるという共通の原点に立ち，今後とも巡回指導等を通じ連携しながら実習教育の更なる充実を願ってやまない。

注

1　社団法人日本社会福祉士養成校協会編『相談援助実習指導教員テキスト』，中央法規，2009 年 4 月。236 ページ。
「社会福祉士学校及び介護福祉士学校の設置及び運営に係る指針について」（平成 20 年 3 月 28 日 19 文科高第 918 号，厚生労働省社援発第 0328002 号）参照。

2　前掲書　146 ページ。

3「主な参考文献」中の 7．pp.138–139，参照
2 年生の実習予定生に夏休みの宿題で，家事を 2 件以上体験した学生が秋からの実習で，施設評価は「A」が 42%，「B」が 33%を占め，体験が実習に生かされている。（分散分析結果も F 値＝ 3.962 ＞ F (0.95) ＝ 3.287 で有意差が認められる）
なお，「実習不安」については，不安度は 3 年生 64.5%に対し 2 年生は 63.7%であったが，逆に満足度は 2 年生 72%に対して 3 年生は 86%で 3 年生の方が満足度が高い。（不安度，満足度については，「主な参考文献 No.8．p.134, 137 参照）

主な参考文献

1，大西敏浩他，「社会福祉援助技術現場実習の課題」，（四天王寺国際仏教大学），『日本社会福祉学会第 52 回大会報告集』，2004 年，p.135。
2，清重哲男，「社会福祉士養成教育の専門性と現場実習の効果」，（NHK 学園社会福祉士養成課程），『日本社会福祉学会第 52 回大会報告集』，2004 年，p.529。
3，金　他，「社会福祉実習におけるスーパービジョンの体系化」，（田園調布学園大学），『日本社会福祉学会第 52 回大会報告集』，2004 年，pp.525–526。
4，日本社会福祉士会『社会福祉実習担当者養成セミナー』，2004 年，p.52。
5，社団法人日本社会福祉士養成校協会編，『相談援助実習指導教員テキスト』，中央法規，2009 年，pp.235–253。

6, 社団法人日本社会福祉士養成校協会編,『社会福祉士実習指導教員テキスト』, 中央法規, 2009 年, pp.175–165。
7, 梅澤嘉一郎, 藤原昌樹, 松原征男,「社会福祉援助技術現場実習からみた実習教育の課題に関する研究」,『川村学園女子大学研究紀要』, 第 16 巻　第 1 号, 2005 年。
8, 梅澤嘉一郎,「介護等体験における自己達成感に関する研究」,『川村学園女子大学研究紀要』, 第 19 巻　第 1 号, 2008 年。